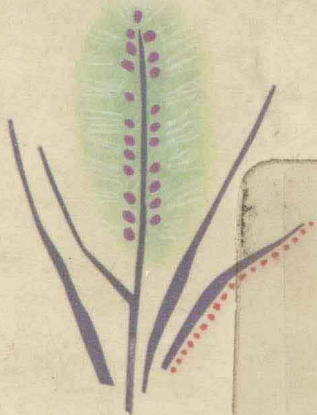
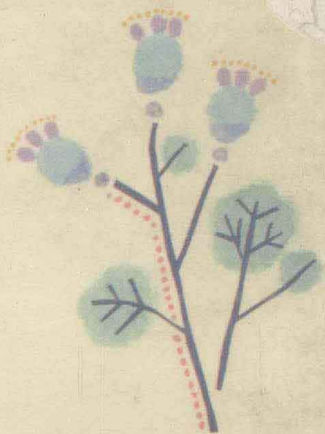
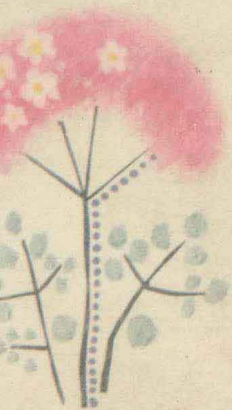


99の人生との出会い

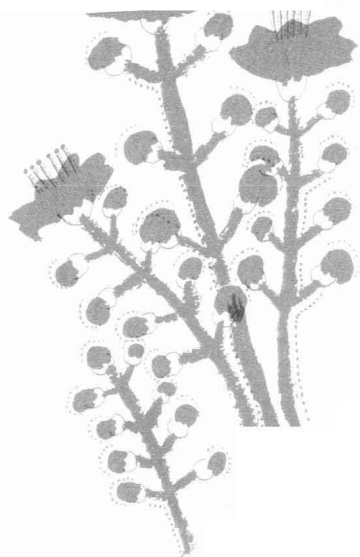
第1集

ぼくらが生きがいを紡ぐとき



99の人生との出会い 1

ぼくらが生きがいを紡ぐとき





0395-32301-8924

© Ryohei Komiyama 1981

99の人生との出会い (1)
ぼくらが生きがいを紡ぐとき

一九八一年十一月 第一刷
定価／九八〇円

編者／小宮山量平
こみやま りょうへい

発行者／山村光司

発行所／株式会社理論社
東京都新宿区若松町一〇四
電話(03)二〇三一五七九一
郵便番号 一六二

振替 東京九一九五七三六

乱丁・落丁本はお取替えいたします。

《兎の眼》《太陽の子》愛読者手記集

99の人生との出会い ● Ⅰ

ぼくらが生きがいをつむ
を紡ぐとき
もくじ

小宮山量平 編集

第一章 青春なんて言葉に甘えないさ ● 今わかものたちは思う

私から大人たちへ言いたいことは

「待っていて下さい」ということなのです

神奈川県 高校生

清瀬 哲子 8

世間の大人たちは現状を

ほんとうに知っているのだろうか

北海道 中学生

柴田 亮平 17

たくさんの人びとが笑いながら

人の心を踏み荒していきます

京都府 中学生

萱島 和子 23

倖せすぎる不幸な時代に生きる

可哀想な小悪魔たちの心を

岡山県 高校生

吉田 あさみ 33

人生の一過程に過ぎない受験なんかで

心を奪われるような、そんな人間だったら

埼玉県 中学生

須賀 奈穂子 38

まわりの人が助けようとしてくれても

助かる気持がなければ助からないのです

静岡県 高校生

飯島 直子 44

あれほど、もがき苦しんでいた鎖の中から

ようやく抜け出された自分の姿

東京都 大学生

吉田 美枝 49

まだ忍耐とまではいきませんが
耐えられるようになったと思います

三重県 高校生

佐藤 理恵

54

自分で生きようともせず
生かしてもらおうとするなんて……

神奈川県 大学生

石井 まゆみ

60

人間はみんな弱くて見栄っ張りで
素直になれるのは心細くて仕方ないとき……

大阪府 高校生

楠本 裕実

66

第二章 ぼくらが生きがいを紡ぐとき ●富田林高校文芸部から

73

人はただ、人間になりたいという想いの
深さによってのみ、真に関わることができる

大阪府 高校講師

平井 孝尚

74

真の感動を手にするためには
能動的な行為を僕が紡がなくては……

大阪府 高校生

本村 憲太

79

苦しそうに命を食べながらそれでも
精一杯力強く生きてゆきたいのです

大阪府 高校生

松元 睦美

85

自分が相手に対してする作り笑いが
どれほど相手を悲しませているか……

大阪府 高校生

半田 輝洋

93

一個のまなざしが在りつづけたゆゑ
僕はその値を持ち得たのだ……

大阪府 高校生 森元 康之 100

素直に自分に問いかけてみよう
——輝いている私とウダウダした私

大阪府 高校生 加古川 淳子 105

人を変え自分を変えて絶えず高まり
人を愛する優しいまなざしを

大阪府 高校生 上本 雅也 110

断崖絶壁にわずか指一本で
やっとの思いでぶら下がっている危うさ

大阪府 高校生 瀧井 有紀 115

自分に甘さを許していたことに気づいた時
過去の私がそんな私を責めた……

大阪府 高校生 柴田 恵里 121

そんなことを認めてしまったら
僕の方が生徒ロボットになってしまふ

大阪府 高校生 伊良波 寛志 126

自己意識化と行為の連続によって
《人生の問い》に正しく答えること

大阪府 高校生 小寺 康之 130

第三章 やさしさはやさしさを呼んで ●さまざまの教師たちが

137

考える道徳ではなく押しつけの道徳は
一線が崩れるとあとがない……

千葉県 高校教員

小野田 邦美 おのだ くによし

日常生活の煩わしさが私に忘れさせていた
こころの底の飢餓感がいま私の中に疼く……

群馬県 高校教員

仁井 杏子 に い きょうこ

もつともつと希望を、もつともつとやさしさを、
もつともつと人間らしさを……

岐阜県 小学校教員

小畑 頼和 お ばた よりかず

一時期における生活や思考体験は、
時には人の一生を本質のところまで決定づける

岩手県
大学教務補佐員

佐々木千紗子 ささきちさこ

そんな人情も空も美しい里に
悲しいことがフツフツと起きてきたのです

岩手県 保母

熊谷 敬子 くまがい けいこ

友情の中で欲求が湧きおこり
家族の理解の中で行動が生まれたK子ちゃん

広島県
身障者施設指導員

後給 晴子 ごきゅう はるこ

それまで何も言わなかった治美が
「かわいそやな、うさちゃん」と言った

愛知県 大学生

沼田 文女 ぬまた あやめ

いま未熟であつても《あすなろ》の志を
教えるとは知識のきり売りではないんだ

神奈川県 小学校教員

小鮒 智 こぶな ちし

191

183

174

168

162

154

145

138

授業を茶化す、暴言をはく、
注意しても迫力不足で効果が無い……

岐阜県 高校教員

勝村 幸代 かつむら さちよ

199

先生、母、妻。いや、母、妻、先生……
いやいや、どうも並べ方が悪い

徳島県 高校教員

竹内 紘子 たけうち ひろこ

207

世の中、いろんな人がいるから
生きていておもしろいんじゃないかな

兵庫県 小学校教員

植田 博資 うへだ ひろし

213

この幼き「読者」たちの声こそを
——『気まぐれニユース』から語る

香川県 小学校教員

金丸 真明 かなまる まさあき

220

あとがき

小宮山量平

233

そつてい・カット 杉浦範茂

『99の人生との出会い』 第二巻「君たちの中に私たちが生きる」 第三巻「人間の痛みによせるおもい」を

第一章

青春なんて言葉に甘えないさ

今わかもんたちは思う



私から大人たちに言いたいことは

「待っていて下さい」ということなのです

清瀬 哲子

高校一年生 16歳 女

(神奈川県茅ヶ崎市)

いつかぼくが風になれたら

君と空を駆けめぐり

二人の日を見つめながら

思い出を思い出を作るんだ

思いきり大声でどなりたいたんだ

歌いたいたんだ

このまままっすぐ歌っていたいたんだ

君と……君と……

今すぐこの教室からとびだして

どこかへ行ってしまいたいたんだよ

今は何もこわくないんだ

君と一緒になら

なぜだろうね

なぜなんだろうね

この教室がつまらないんじゃない

ただ歌っていたいんだ

今のきもちは

不思議とおちついている

今日何かをしなければ

このまま一生

悔いが残りそうだよ

本当に

授業の遅れも今は眼中にないさ

明日から思いつきしやれると思ってるから

わかるんだよ

今が友情の発端はつたんだって

今日が……今日だけが一生のうちの

テーマなんだよ

今日……待っちゃいけないと思うんだ

おさえちゃいけないと思うんだ

今日思いつきし語り合つて

未来をみつめたいよ

本来にあしたから

真剣な日々をおくれると思うから

約束するよ 君のために……ぼくのために

きれいごとじゃない……うそじゃない

冒険……かな……

でも遊びじゃないんだ

明日を考えてるから

真剣な目で考えてるんだ

いつかぼくが風になれば

君と空を駆けめぐり

二人の日を見つめながら

思い出を思い出を作るんだ

誰に何をいわれても平気さ

青春なんていう言葉に

甘えないさ

甘えてるんじゃないくて

理屈ぬきで 背のびしたい

うしろめたさなんて今はないもんね

スリルを味わうわけじゃないよ

すべて自分自身の責任とするから！

皆勤賞なんかより

もっともっと大切なものをみつけたよ

自分自身を歩かせるための

一歩目だよ

この日は大切なんだ

一生に一度の日かもしれない

だから誰にも

止められやしないよ

青春はこれだね

自分で学びとるものだよ

今までの迷いなんてないよ、もう

何もおそれないもの
本当の自分をみつけるために
今日、背伸びしようと思うんだ

何を悩んでいたのかね

素直に生きればいいじゃないか
なぜか今、自分でわかるんだ

この日から自分かわる……って

不思議なほどに素直だもんね

わけはわかってるんだよね

君の笑顔がまた見れたからさ

そうだよ、今までのつまずきは

みな、君だったんだよ

たぶんそうだと思うよ

そのことが気がかりで

まよったんだよ つまづいたんだよ

でもさ 今は自信あるよ

強く生きてゆく、ね！

明日を待とうじゃないの

大人を無視するわけじゃないさ

でも今日しかってくれる人びとがいたら

笑いとばすね

あなたは青春を通りましたか？……って！

おそれないもんね

やってることが正しいことだ……って

信じられるから

自分の青春は自分で守るよ

だから失敗はしないさ

強がりじゃないよ

悩みました。夢のこと、友情のこと、恋……。中学時代、三年間「皆勤」で通した私でしたが、最近、親に内緒の授業さぼりをしました。いわゆる、サボタージュ——です。迷わず、ためらいもなく、午後の授業を抜け出し、横浜の港へ……。私の一番好きな場所でした。

——なぜサボタージュをしたのか。問われても仕方のないことです。案の定、多勢の人たちに問いかけられました。しかし、私には言い訳する気も抵抗する気もサラサラなく、堂々たるものでした。その時の私には、勉強する気も失せていました。何かに熱中することすらも忘れかけていました。ちょうど文化祭が終了しきった直後のことだったので、その疲れもなかったとはいえない気が

するのですが。本当に何も手につかず、ある日気づいたのです、「歌いたい、あの子と……」。私は中一の頃からギターを持ち始め、現在もフォーク研究部で歌っています。ずっと一緒に歌って来ていた子と、お互い意地の張り過ぎで、気まづくなっていたのです。そのことに気づいたのが、サポータージュを決行した日の午前授業の最中でした。休み時間に、その子に素直に心の内を告げ、話し合いました。その時のセリフは極めて単純。

「ネエ……午後どこか行こうよ」

「うん！」

「冗談めきでサ」

「わかってる」

文句なしで決定。迷わず二人、午後は、横浜の港まで。本当に気持ち良かった。今まで、意地になっていた面など……きれいさっぱり、洗い流されてしまった気分でした。

もう、その日から、だいぶたちますが、私の生活は、悪い方向へ進む傾向はありません。もちろん、その友人も。先生も、「おまえを信じる」と一言いったきり、その後何もいつてはきません。しかし、もし、そのとき先生に、ひどくしかられていたら、どうなっていたかわかりません。

——一時は絶対！に見えた決意・決心も、振り返ればモロいものだったのかもしれない。その点、私は恵まれていました。

何でも、「悪いことは悪い！」と決めつけてしまう大人たちの中で、羽を伸ばせなくなってしまうために、飛躍しそこねてしまう私たちの仲間……。悩む暇もなく、もちろん、解決する時間もなく、そのうち、周りも見えなくなり、友人たちの中から、外れてしまう仲間……。しかし、その事